

シラバス

科目名	音楽Ⅱ	単位数	3 単位	学年・学科	3 学年 全学科	展 開	選 択
教科書名	音楽Ⅱ MOUSA 音Ⅱ-310 (教育芸術社)			副教材名	音楽通論 ミュージックノート 学生版コールユーブンゲン		
科目の目標	音楽を通して豊かな心を育む						
学習内容と進め方	音楽大学・保育科受験など、音楽関係の受験に対応できる力を養う。						
学習の留意点	技術を伴う科目でもあることから、自ら積極的に学ぶ姿勢が重要である。						
月	単 元	単位数	具体的な学習内容	評価の観点			備 考 (評価項目)
				1	2	3	
4	ガイダンス	1	・授業の内容、評価方法の確認				
5	聴音・視唱・音階	1 4	・聴音、視唱は年間を通じて実施	○	○		・段階的にソルフェージュ能力を高めることができ、記譜することができる。
6	音階	1 2	・音階について ①長音階、短音階(自然・和声・旋律)の音列について	○	○		・音階についての基本構造を理解することができる。
7	関係調	8	②平行調、属調、下屬調、同主調の関係調について	○	○		
8	音程	1 4	・音程について ①完全音程、長音程、短音程について	○	○		・音程についての仕組みを理解し、それぞれの特徴や音程を聴き分けることができる。
9			②増音程、減音程について	○	○		
10			③重増音程、重減音程について	○	○		
11	和音	1 6	・和音について ①長三和音、短三和音、減三和音、増三和音	○	○		・和音の仕組みを理解し、和音の特徴や構成音の役割について理解することができる。
12			②七和音 (属七・短七・減七・長七・導七・減短七)	○	○		
1	コード伴奏法	1 6	・コードの構成 ①コードの基本形 C CM7 C7 C7-5 Cm Cm7 Cm7-5 Cdim Caug Csus4 C6		○	○	・コードの構成を理解し、和音の特徴や構成音の役割について理解することができる。 ・ダイアトニックコードを理解し、楽曲の構成されているコードを考察することができる。
2			②ダイアトニックコード		○	○	
3	音楽記号	6	・強弱記号・速度記号・発想標語・奏法に関する用語と記号・反復記号・略記号・加線の省略と装飾音	○	○		・音楽記号の表記と意味を理解し、表現することができる。
2	作曲	1 6	・ダイアトニックコードを使った作曲	○	○	○	・ダイアトニックコードや和音の働き(トニック・ドミナント・サブドミナント)を理解し、コードの効果的な進行と旋律を創作することができる。
3	発表	2	・作曲の発表				
評価方法		<p>(1)年間を通して音楽関係の受験に対応できる力を養うため、楽典分野を多く取り入れている。</p> <p>(2)単元ごとに小テストを実施し、理解度を高め、評価点として取り入れる。聴音、視唱の実技についても小テストを実施し、評価に反映させる。</p>					
評価の観点	観点	趣 旨					
	1. 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。					
	2. 思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。					
評価基準	3. 主体的に学習に取り組む態度	・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。					
	1. 知識・技能	A 基本的な概念、理論を体系的に理解している。 B 基本的な概念、理論を体系的に概ね理解している。 C 基本的な概念、理論を体系的に理解が不十分である。					
	2. 思考・判断・表現	A 音楽的思考、作品表現する力を十分身につけている。 B 音楽的思考、作品表現する力を最低限身につけている。 C 音楽的思考、作品表現する力を身につけていない。					
	3. 主体的に学習に取り組む態度	A 音楽の素晴らしさを認識し、自ら音楽に参加する姿勢が身につけている。 B 音楽の素晴らしさを認識し、自ら音楽に参加する姿勢が概ね身につけている。 C 音楽の素晴らしさを認識し、自ら音楽に参加する姿勢が不足している。					